会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回体制整備事業運営委員会 |
| 開催日時 | 令和3年8月2日（月）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | オンライン開催 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾  委　　　員：成底　敏、岡村　慎一、小田　政江、松田　義弘  （オンライン参加）  川端　康浩、泉田　優、猪俣　昇、氏部　正、山根　大助　　　　　　　　富久　重信　　　　　　　　　　　　　　　　　　計11名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計 1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計12名 |
| 議題等 | 1. 前年度実績と今年度の事業内容について（成底）   ・昨年は、各専門学校が作成している申請書類を把握した上で、申請業務に関わるスタッフの育成、申請書の内容の確認として、各種ヒアリング・アンケート調査を実施した。  ・研修ニーズでは「自身で学習が足りていないと感じている項目」、「部下に学習させたいと感じている項目」、「総合的に学習が必要であると感じている項目」について確認した。  ・調査結果から、研修開発ニーズ、科目別研修区分、研修の位置づけをまとめた。研修区分のカテゴリーとしてA類は法体系を学ぶ部分、B類はマネジメント関係、C類は情報公開などの手法・マーケティング、D類はシラバスの適切な表現（チェック項目）の教育となっている。  【分類ごとの概要】  ＜A類＞  ・A．知識系分野では、3科目のユニット型。3～5分で視聴できる逆引き型のマイクロラーニングオンデマンド教材を、1科目につき4コンテンツ、合計12コンテンツの作成を推進する。予算は1コンテンツあたり165,000円となっている。担当委員として小田先生と山根先生を入れている。講師として全専各連の菊田氏にご協力いただけることになっている。菊田氏から、専修学校設置基準については、1.体系付け、2.受講対象者、3.育成目標、4.修学支援関連法令については新旧制度の盛り込み方について明確にしてほしいとの要望をいただいている。受講対象者は経験3～5年の後継者を含む作成担当者としている。  ・体系付けの素案を職業実践専門課程様式4、就学支援制度様式2で作成した。作成するにあたり必要な知識を入れ込んだ。水色セルの項目が「学則」の名称と一致しているか、ピンクセルは「設置基準」と一致しているかを表している。  ・就学支援制度の申請書での「省令で定める基準単位数又は授業時間数」は設置基準の第16・17条が関わってくるが、学生が受ける必要がある時間数なのか、学校が開講する必要がある時間数なのか、などの知識が必要となる。  ・専修学校設置基準確認として、「学則」・「カリキュラム」・「シラバス」に対して相対する条項をあげた。このような資料を小田先生、山根先生に協力いただいて作成していき、菊田氏に相談したいと考えている。  【意見等】  ・このような方向性で良いか。（成底）  →良い。（岡村）  →菊田氏の要望もあると思うので、決めた方向性を実現するために菊田氏としてどのような対応をしていただけるかを検討していく形で良いと思う。（飯塚）  ・今後の進め方について、法令などの逆引きになっているが、各学校でのエビデンス例も表示するのか。学内情報からの作成手順を指導するコンテンツにするのか、法令に則って整合性が取れているのか確認するコンテンツにするのか？（山根）  →A類に関しては作成上のルールや基準の知識のみを伝えるコンテンツと考えている。事例などはB類・C類で関わってくるかと考える。（成底）  ・A類については、今年度は1～2月にコンテンツ完成を目指す。スケジュールとしては、10月前後に菊田氏と打ち合わせ、12～1月にコンテンツ収録を予定する。（成底）  ＜B類＞  ・B．マネジメント分野では、担当委員として松田先生と川端先生を入れている。専修学校のガバナンス強化を目的とし、教学マネジメントに関する情報を収集、内容を取りまとめる。学内PDCAも含めた教育スパイラルをどう回していくか、二つ目の目的として、教学マネジメントの実施事例等を専修学校に紹介する。概要として大学・マネジメント研修実施業者、三菱総研等から聞き取り調査をし、研修開発に必要な知識や要素等を分類・整理し報告書としてまとめる。実証規模として、5か所程度に委員2名を派遣し、聞き取り調査を実施。大学や専門学校等の2事例とワークショップのセミナーを企画し、東京・福岡を会場として11～12月に開催する。ゴール目標はセミナーの開催。  ・三菱総研は「経営」「学科」「授業」の階層だが、この研修では「情報公開」と「人材育成」をキーとしたマネジメント能力育成に特化して教学マネジメントがうまくできている学校を調査し、その事例を含めたセミナーを考えている。事例候補として、小山学園、埼玉福祉・保育専門学校、奈良保育学院、全専研会員校の麻生塾・KBC・アルス・鈴木学園・龍澤学館・穴吹・FSGが上がっている。講師は東京テクニカルカレッジの白井校長に協力いただくことになっている。  ・本委員会でコンセプト、話の流れを決め、その内容に沿った実地調査を実施し、調査結果プラス事例調査を含めたセミナーを開催したい。対面開催を目標に準備をするが、新型コロナの状況によりオンライン配信も想定する。  ・8～9月で調査内容の決定、9～10月に調査実施を考えている。  【意見等】  ・コンセプトがあるのでイメージはできるが、学科についてはどのような内容か。（松田）  →三菱総研では教学マネジメントは学校運営に関するマネジメント、学科単位を回していくためのマネジメント、個の先生方が授業を回していくためのマネジメントに分けているが、ここでは、「情報公開」と「人材育成」をキーとしたマネジメント能力育成に特化してもいいのでは、と考えている。学内の仕組みを構築するための手段や道筋を示せたら良い。（成底）  →オンライン授業やICTの導入についてガイドラインに沿って運用されているかは各学科でPDCAが回していく、さらに各教員が授業としてどのように取り組むか、その部分について監査を含めマネジメントCAができているか、各階層で繋げていかないといけないと考えている。（岡村）  →小山学園の特徴は教育運営にある。（飯塚）  →小山学園は、現場でやっていることを学校のマネジメントとしてどうコントロール、チェックしていくか。最終的には1授業について全体から見てどうなのか、統計的に見るとどうか、それがディプロマポリシーのここに繋がっているということを言葉として学科長や教員に伝えることをマネジメントしようとしている。そこがセミナーで分かってもらえると良い。（岡村）  →実地調査の内容について白井校長と分けたほうがいいのか、もしくは白井校長に相談したほうが良いか。（成底）  →経営と教育のマネジメントは分けて、教育に軸を置いたほうが小山学園からは良い情報をいただけると考える。経営は学校ごとに違いがあるため教育に的を絞ったほうが良いと感じる。また、調査は指定養成施設かどうか、学科数の違いなど学校形態を明確にしたほうが良い。（飯塚）  →「学習成果が見えやすいテクニカルな部分」と「学習成果が見えにくい人間力」の2つの視点について、ディプロマポリシーからカリキュラムポリシーまでの連携と学習成果がどうつながっているか、事例として紹介できると良い。（岡村）  →昨年度の調査結果も踏まえ、教育に特化した内容で松田先生、川端先生を中心にセミナーのコンセプト、調査内容を詰めていく。（成底）  ＜C類＞  ・C．マーケティング分野は担当委員として泉田先生と川端先生を入れている。  事業目的として、自校の情報を公開することで、自校の魅力を向上させている事例の調査を行い、その内容を共有することにより専修学校の情報公開を促したい。事業概要は、学生個別の成績を分析し、効果を上げていることを公表している例等で成果を上げている学校を調査し、調査結果を踏まえセミナーを開催する。実証規模は、全専研会員校の中から小規模校3校、大規模校3校に委員2名を派遣し、聞き取り調査を実施し内容を取りまとめたうえでワークショップなどのセミナーを企画し、東京と福岡を会場として11～12月に開催する。調査候補は大規模組織として、麻生塾・穴吹・FSG、単独校として、浦山学園・アルス・三友学園・YIC京都・龍馬学園をあげている。8月の全専研例会広報部会にて議題として取り上げていただいて、話を進めていく。  【意見等】  ・資料内赤字部分、学校の大と小をどのように区分するか。例えば岡山情報ビジネス学院さんは単独ではあるが大規模校に入るかと思う。定義付けについて皆さんのご意見をいただきたい。また全専研の広報部会のターゲティングの情報の期待度を聞かせていただきたい。（泉田）  →全専研でいうと大規模校は組織としてマネジメントが行き届いているという部分でこの3校をあげている。大規模校と小規模校に分ける必要があるかも検討が必要。8月の報告部会で自校の魅力、職業実践専門課程申請書の内容を上手く公開しているような学校の聞き取りができればと考えている。（成底）  →小規模校を中小規模校、一般校など表現を変えても良いかと思う。方法、先進事例、ユニークな事例をどのように選択するのか、意見交換されたものをフィードバックして欲しい。（泉田）  →大規模校だけではなく小規模校でもできることは何か、ということで大規模・小規模と分けている。アドミッションポリシーに基づいた情報提供をして求める人材をちゃんと説明しているかが情報公開の理想。求める人材と教育内容が連動しているかが重要と感じる。その部分は大規模・小規模関係ない。（岡村）  →“公開方法の上手さ”だけの説明だと広報のみの情報公開になってしまう。強みとして“学校の求めている人材、教育をどう考え伝えて行くか”が差別化に繋がると考える。（高岡）  →ディプロマポリシーの検討・作成に携わっていない広報がHP等で情報公開することが多いので、経緯を知らない学科の魅力を伝えることができるのかということにも疑問があり、その部分はB類と関わってくる。（成底）  →情報公開は広報だけの話ではなく、自己点検・評価委員会などの情報を自校で公開しているが、見ているのは他の学校や企業の方で自校のやっていることを見ているし、それが改善にもつながっている。それも情報公開の一つの意味である。（松田）  →広報は募集ではない。情報公開は広く多くの人に見てもらって自校の教育活動に対してのファンになってもらい、求める人材・教育にフィットしている周りの人に勧めてもらえるようなことを目標、定義していかないと目先だけにとらわれてしまうと考える。（岡村）  →情報公開が信頼に繋がっていく、魅力として発信できるということを考えると大規模・小規模は関係ない。担当部署の大規模・小規模は出てくるかと思う。（高岡）  →何をもって魅力的な情報公開というか、基準を詰める必要がある。広報部会は全専研の広報担当が集まるので、情報を様々な手段で発信しているところ、また、校運営部会でもディプロマポリシーの作成にどのような方が携わっているかヒアリングしようと思う。（成底）  →広報部会で魅力的な情報公開をしている学校などの情報を聞き取っていただけると良い。（泉田）  →情報公開の方向性にズレが生じないようにルールを決めていきたいと感じた。（川端）  →広報部会で、オープンキャンパスなどでアドミッションポリシーと教育方針が繋がった説明をしているか、している事例があれば共有してもらいたい。（岡村）  →YIC京都のようなディプロマポリシー作成の前後で、入学者の動機が変わったというような話がテーマに合致していると思う。C類についても今後内容を検討、絞っていく。（成底）  ＜D類＞  ・D．教育系分野では、担当委員として川端先生と私（成底）を入れている。「シラバスを作成できるようになるための研修」とは異なり、公開するシラバスについて、担当者としてどこをチェックしたらいいのか、何を理解している必要があるのかを習得する研修を作成することが事業概要となっている。実施調査を実施した上で、オンデマンド型eラーニング教材を開発する。講師として福岡大学の植上先生に依頼する予定。調査候補は、B類・C類と合わせて実施を考えている。  【意見等】  ・植上先生には打診はしている。具体的な内容が決まったらお話をする予定になっている。（飯塚）  →D類の研修としてどの部分を植上先生に講師をしていただくか検討後連絡する。（成底）  ・実地調査の方法についてはどうか。（成底）  →合理的にできるならそのように実施して欲しいが、新型コロナの感染状況によって対面かオンラインかを考慮して実施して欲しい。また、委員として参加している学校に調査をする際はどのような理由・目的なのかを明確にしてほしい。（飯塚）  【今後について】  ・A～D類それぞれの分野ごとに担当者の皆さんに連絡し、スケジュールや実施内容を検討していきたい。調査方法については9月2日の実施委員会で相談の上、共有していきたい。（成底）  【その他意見】  ・C類のマーケティング分野について、聞き取りと趣旨を両立できるようなやり方は難しいので、皆さんのご意見のように進めていくのが良いと感じた。（氏部）  ・C類のマーケティング分野の情報収集に関して、アドミッションポリシーに準じた人材が入学しているか、オープンキャンパスが有効活用されているかなどを自校でも確認したい。このような情報が収集できれば、退学の減少にも繋がるので、大変有効だと感じた。（富久）  ・C類のマーケティング分野について、課題も多々あるが、基準になるものが出来ると良い。自校でも魅力的な情報公開はなかなか出来ていない状況なので、皆さんと良い方向に作り上げていければと考える。（猪俣）  ・C類は学校運営者が情報公開と広報活動をどのように連携できるか考える力を向上させ、アドミッションポリシーに則した情報公開など必要なテーマに目を向け、改善を継続できる力を育成できる講座を作れればと考える。（岡村）  ・C類に関しては皆さんと同意見で、いかに戦略的な情報公開に繋げるかを勉強し、セミナーが完成したら自身でも活用したい。B類では、別紙様式4を作成する上でのシラバスの作成方法など勉強していきたい。（山根）  ・複数の担当があるので、それぞれのテーマに則してぶれないように活動していきたい。（川端）  ・C類に関する皆さんのご意見を、重責を感じながら聞いていた。先進事例があぶりだせるか分からないが、切り口、ヒントを引き出せるような調査ができると良いと感じた。（泉田）  ・広報として、情報公開方法について「学習成果をどのように公開するか」など悩むところがある。本事業で開発される研修でそこを学ぶことができれば、良いものができていくと感じる。（小田）  ・今日の委員会で総合的に事業に対する理解が深まった。（松田）  ・職業実践専門課程の改定時期に来ており、改定には私たちの活動が重要な要素になると感じている。この事業の成果が社会に影響していくということを皆さんに感じてもらえると嬉しい。自身も機になるようなこと、予定成果などを文科省に伝えていきたいと考えている。（岡村）  ・これからそれぞれの担当で具体的に活動が始まる。情報公開が専門学校の強みに繋がっていけるのか、C類は特にどうなるか楽しみだと感じている。テクニックや方法など表面上の真似にとどまるのではなく、自校がより良くなるための活動という意味を持たせていけると良い。その他の分類に関しても人材育成に非常に意義のあるテーマなので、協力者の皆さんとも良い連携をとって、良いものを作っていければと考える。（高岡）  ・コロナ禍なので状況を考慮しながら、安全に活動をしてほしい。運営委員会は3回、実施委員会は5回予定している・次回の予定は11月だが、今日の委員会の内容から考えると早めに開催しても良いかと考える。（飯塚）  7. スケジュール  ・第2回運営委員会は、9月16日・17日・21日・22日で日程調整を行う。実施方法は岡山での対面とオンライン併用を予定するが、状況により変更する。 |
| 配布資料 | ・210802 運営委員会資料  ・令和3年度体制整備事業　事業概要  ・体系付け素案：職業実践専門課程様式4・就学支援制度様式2 |

以上